

ココロハコブ
プロジェクト



2012年3月19日

愛知製鋼株式会社

東日本大震災・「鉄力あぐり」を活用した農業支援継続を決定 ～震災復興への継続的支援活動“ココロハコブプロジェクト”の一環として～

愛知製鋼株式会社（本社：愛知県東海市、社長：藤岡高広）は、震災復興への継続的支援活動の一環として、東日本大震災の被災地支援に関する社団法人日本経済団体連合会（会長：米倉弘昌住友化学会長）の呼びかけに応じて、津波被害（塩害）を受けた名取川沿いの農地（仙台市太白区）に当社の製品である植物活性材「鉄力あぐり」を提供して農作物の育成支援を続けてきた。

これまでの活動において、「鉄力あぐり」の特性が、他の塩基性（アルカリ性）土壌と同様に塩害地域での使用にも有効であると判断できたため、次年度（2012年度）も支援を継続することを決定した。

昨年、当社は震災被災地で農耕地の再生に取り組むNPO法人農商工連携サポートセンター（代表理事：大塚洋一郎）による『復興キャベツプロジェクト』に参画し、キャベツの植え付け前に被災農地の土壌分析を実施した。その結果、農地のpH（水素イオン指数）値が約7.5と日本の平均的な土壌（pH値5.5～6.5）に比べ高いことが判明した。これは、津波被害により海水に含まれるアルカリ成分が土壌に残ったものと考えられ、土壌中の塩分濃度が下がっても、土壌がアルカリ化してしまうという問題が懸念される。

土壌がアルカリ化すると、農作物が必要とする鉄分などのミネラル要素を自然吸収できなくなり、光合成の能力が低下し、生育が阻害されてしまう。

そこで、土壌に「鉄力あぐり（B12）※」を混合し、農作物の生育中に鉄欠乏が発生しないようにすることを検討し、実際にキャベツの栽培をおこなった。その結果、「鉄力あぐり」を使用しなかった所との比較では、生育中の葉の色も濃く、刈り取り後のキャベツも大玉のものが多く収穫された。

当社は今後、被災地域の関係者と連絡をはかり、震災被災地での農産物の生産力を高めるための協力・支援を行いながら、「鉄力あぐり」の普及による農業への貢献を継続したいと考えている。

また、会社としても2012年度の継続的支援活動の内容について、関係機関や関連団体・企業とともに検討を開始している。

※鉄力あぐりB12の特徴：当社が製造したFeOに有機酸等を配合し、植物が吸収しやすい鉄分を供給する植物活性材。3～5mmの顆粒状。土壌への全面施用、苗移植時の局所施用、培土への混合などに使用できる。

pH（potential Hydrogen, power of Hydrogenの略）

以上

■ご参考

『復興キャベツプロジェクト』では、「鉄力あぐり」の資材提供のほかにも、キャベツの植え付け（2011年9月）、収穫（2011年12月）に社員が参加。さらに、収穫したキャベツの一部を購入（250個）して、社内の食堂で調理（ロールキャベツ）して、役員・社員に提供（2011年12月）した。

2011年度の震災支援状況(主なもの)

1. 義援金の拠出：会社（2,000万円）、社員カンパ（約276万円）
2. 支援物資の提供：①会社備蓄品の提供（アルファ米、乾パン、医薬品 など）
②車両（トヨタ ヴィッツ7台：宮城県5台、岩手県2台）
③衣料・日用品（当社および愛知製鋼グループ社員から集め、東海市を通じて釜石市へ）
3. ボランティア活動：19名がガレキ撤去・被災家屋の清掃作業などに参加
（個人・基幹労連・トヨタグループの呼びかけに応じ）
4. その他：換金可能品（書き損じ葉書、古切手、携帯電話など）の回収・供出

■参考資料

「鉄力あぐり」シリーズ（製品群の一部を抜粋）



一般家庭園芸愛好家向け（手前左側4製品）と農業関係者向け（手前右側3製品および後方の大袋製品）